

(5) アイスクリーム類の包装紙については、そのほとんどが痕跡程度で高濃度で汚染されたものはなかった。

以上の結果から考察するに、本調査研究では検体数も少なく、さらに広範囲に、系統的に調査研究をする必要があるが、現段階の調査成績のみをかぎり、本県におけるPCBによる食品汚染は、広範囲に及んでいると思われるが、汚染の度合い(PCB濃度)は比較的少なく、すべて許容基準以下である。しかしながらPCBによる環境汚染がそれ以上増大すると、食物連鎖を通じて人体へ濃縮、蓄積され、その影響が憂慮されるので、PCBによる汚染防止のためには、今後のPCB分

析調査による監視と、強力な行政指導が必要である。

#### Ⅳ 文献

- (1) 厚生省食品衛生課：食品衛生研究，22，235(1972)。
- (2) 脇本忠明，立川涼，小川恒彦：公害と対策6，517(1972)。
- (3) 環境庁公害保健課：ポリ塩化ビフェニール(PCB)。
- (4) 水谷民雄，松本正義，藤原邦達：食衛誌，3，228(1972)。

## 沖縄本島南部の水質について

衛生化学室 大城 紀子  
田 頭 政 直  
中央保健所 宮 里 秀 樹

### Ⅰ はじめに

那覇保健所の協力を得て、昭和46年1月から昭和47年2月にかけて沖縄本島南部のほぼすべての簡易水道(検体数79)について一般飲料水試験(日本水道協会)を行なった。以下はその結

果の報告と化学的検査について若干の考察を加えたものである。

### Ⅱ 検査結果および考察

検査結果は別表Ⅰのとおりである。

別表 I 水質検査結果

○飲料適 ×飲料不適

採水場所	種別	PH	電導度 μΩ/cm	アンモニア性窒素 ppm	亜硝酸窒素 ppm	硝酸性窒素 ppm	塩素イオン ppm	KMnO <sub>4</sub> 消費量 ppm	硬度 ppm	カルシウム ppm	マグネシウム ppm	アルカリ度 ppm	蒸発残留物 ppm	塩素要求量 ppm	鉄 ppm	マンガン ppm	沸素 ppm	ケイ酸 ppm	ABS ppm	判定
1 知念村知念小学校	湧水	8.3	3.2	-	-	0.5	49.3	2.8	176	47.2	14.1	137.4	268	0.36	-	-	-	27.	-	○
2 具志堅	"	8.0	2.0	-	-	0.15	42.2	2.8	178	62.4	5.3	158.6	290	0.05	-	-	-	20	-	○
3 知念	"	8.3	2.0	-	-	0.2	42.2	0.9	180	62.4	5.8	156	296	0.21	-	-	-	20.	-	○
4 志喜屋	"	8.3	4.1	-	-	3.0	36.6	1.8	214	75.2	6.3	185.8	314	0.36	-	-	-	13.0	-	○
5 山里	"	8.1	3.9	-	-	0.0	35.9	0.9	212	77.6	4.4	198.2	202	0.36	0.04	-	-	16.0	-	○
6 山里	"	8.3	2.8	-	-	0.0	44.4	2.2	158	50.4	7.8	129	254	0.58	0.05	-	-	13	-	○
7 知念中学校	"	7.7	5.4	-	-	0.8	71.1	1.3	250	82.5	10.7	237.6	196	0.1	-	-	-	87	-	○
8 久手堅	"	7.8	3.7	-	-	0.6	62.7	0.9	256	110.5	15.6	306	236	0.1	-	-	-	93	-	○
9 久手堅公民館	"	7.8	4.9	-	-	1.3	71.1	0.9	208	69.7	8.3	196	172	0.1	-	-	-	80	-	○
10 知名	"	7.5	7.6	-	-	8.0	107.7	1.3	442	140.1	20.9	364	2,322	0.1	-	-	-	130	-	×
11 山里	"	8.2	2.2	-	-	2.8	42.2	3.2	180	64.1	4.9	172.2	258	0.9	-	-	-	10	-	○
12 海野	"	8.3	21.0	-	-	0.0	70.4	2.5	204	68.9	7.8	206	324	0.05	-	-	-	105	-	○
13 安座間	"	8.4	22.0	-	-	0.0	81.0	1.6	198	66.5	7.8	173.6	332	0.05	-	-	-	72	-	○

採水場所	種別	PH	電導度 μΩ/cm	アンモニア性窒素 ppm	亜硝酸窒素 ppm	硝酸窒素 ppm	塩素イオン ppm	KMnO <sub>4</sub> 消費量 ppm	硬度 ppm	カルシウム ppm	マグネシウム ppm	アルカリ度 ppm	蒸気残留物 ppm	塩素要求量 ppm	鉄 ppm	マンガン ppm	沸素 ppm	ケイ酸 ppm	ABS ppm	判定
14	佐敷村 佐敷	湧水	8.1	3.8	-	-	34.5	0.3	228	83.3	4.9	99.4	316	0.19	0	-	-	50.0	-	○
15	新里	"	8.2	2.2	-	-	41.5	0.3	222	80.1	5.3	96.4	298	0.19	-	-	-	20.0	-	○
16	佐敷	"	6.9	3.0	-	-	37.3	2.8	218	64.9	13.6	154	254	0.1	-	-	-	10	-	○
17	"	"	6.8	3.6	-	-	50.6	1.0	266	107.3	6.8	245	256	0.1	-	-	-	18.0	-	○
18	高山	"	7.8	2.8	-	-	39.4	0.4	188	70.5	2.9	173.2	270	0.1	-	-	-	35	-	○
19	石原	"	7.5	3.5	-	-	48.6	1.0	226	79.3	6.8	192.0	332	0.1	-	-	-	18	-	○
20	手登根	"	7.9	3.0	-	-	44.4	5.4	170	57.7	8.3	158	284	0.1	0.3	-	-	35	-	×
21	佐敷小学校	"	7.4	6.0	-	-	62.7	3.5	416	115.7	31.1	286	680	0.05	-	-	-	160	-	×
22	大里村 大城	"	7.6	3.1	-	-	40.1	2.5	164	48	10.7	123	220	0.1	0.19	-	-	18	-	○
23	普天間	"	7.8	2.8	-	-	40.1	1.6	154	59.3	1.4	128.4	214	0.1	-	-	-	20.0	-	○
24	稲福	"	7.5	3.8	-	-	39.4	3.2	270	100.1	4.8	256	352	0.1	-	-	-	75.0	-	×
25	稲福	"	7.6	3.5	-	-	42.9	2.5	280	92.1	2.1	238	410	0.1	-	-	-	210	-	○
26	稲福	"	7.2	3.5	+	-	42.2	5.4	378	101.7	30.1	333	330	0.5	-	-	-	170	-	×

採水場所	種別	PH	電導度 uΩ/cm	アンモニウム性窒素 ppm	亜硝酸性窒素 ppm	硝酸性窒素 ppm	塩素イオン ppm	KMnO <sub>4</sub> 消費量 ppm	硬度 ppm	カルシウム ppm	マグネシウム ppm	アルカリ度 ppm	蒸発 残留物 ppm	塩 要求量 ppm	鉄 ppm	マン ガン ppm	沸素 ppm	ケイ酸 ppm	ABS ppm	判定
27	大里村 南風原	7.6	3.4	-	-	4.7	41.5	2.5	172	62.4	4.9	166	146	0.1	-	-	-	40	-	○
28	内原	7.7	3.6	-	-	2.1	41.5	3.8	180	66.4	3.4	159.6	120.0	0.1	-	-	-	45	-	○
29	大里原①	8.0	2.6	-	-	4.5	49.3	3.8	156	56.1	4.9	144.8	160.0	0.1	-	-	-	90	-	○
30	ちちん川	8.1	2.6	-	-	0.9	38.7	2.8	136	50.1	2.4	134	142	0.1	-	-	-	60	-	○
31	大里原②	7.6	3.2	-	-	2.1	36.6	3.2	256	88.1	8.7	236.8	236	0.2	-	-	-	60	-	○
32	大里	7.5	2.4	-	-	4.4	40.8	1.6	266	95.3	6.8	239.6	346	0.1	-	-	-	72	-	○
33	玉城村 仲村渠①	8.0	3.3	-	+	6.2	65.4	5.7	182	69.7	1.9	152.8	340	0.2	-	-	-	46	-	x
34	" ②	8.1	3.5	-	-	8.7	68.4	4.1	198	70.5	5.3	171.6	374		-	-	-	70	-	○
35	" ③	8.2	5.3	-	-	13.4	84.5	4.7	244	84.9	7.8	215.2	482		-	-	-	100	-	x
36	" ④	8.0	3.6	-	-	6.5	45.1	4.4	220	76.1	7.3	181.6	112		-	-	-	20	-	○
37	" ⑤	8.2	3.6	-	-	6.8	52.8	4.4	216	72.9	8.8	180.4	344		-	-	-	40	-	○
38	百名小学校	8.0	3.6	-	-	4.0	39.4	4.1	236	83.3	6.8	218.8	346	0.05	-	-	-	40	-	○
39	当山, 屋嘉部	7.5	4.0	-	-	2.0	34.0	3.2	242	92.9	2.4	190.4	264		-	-	-	40	-	○

採水場所	種別	PH	電導度 uΩ/cm	アンモニア性窒素 ppm	亜硝酸性窒素 ppm	硝酸性窒素 ppm	塩素イオン ppm	KMnO <sub>4</sub> 消費量 ppm	硬度 ppm	カルシウム ppm	マグネシウム ppm	アルカリ度 ppm	蒸発残留物 ppm	塩素要求量 ppm	鉄 ppm	マンガ ン ppm	沸素 ppm	ケイ酸 ppm	ABS ppm	判定
40 玉城村 米敷,新川	湧水	7.8	3.2	-	-	10.8	46.6	1.3	248	88.9	6.3	153.6	324	-	-	-	-	60	-	×
41 喜良原	"	8.1	2.6	-	-	3.7	35.3	1.3	178	54.9	10.2	116.4	188	-	-	-	-	42.0	-	○
42 親ヶ原	"	7.9	2.4	-	-	8.6	67.9	1.6	282	90.5	13.6	179.2	348	-	-	-	-	44.0	-	○
43 垣花	"	7.4	4.2	-	-	2.8	39.3	0.6	280	92.9	11.6	233.6	246	-	-	-	-	72.0	-	○
44 新原	"	7.5	6.5	-	-	4.7	98.6	1.9	328	105.7	5.5	234.8	416	-	-	-	-	60	0.32	×
45 玉城	"	7.8	3.2	-	-	0.4	38.0	1.3	178	64.1	4.4	162.8	246	-	-	-	-	90	-	○
46 中山	"	7.7	3.6	-	-	0.6	36.6	0.6	224	76.9	7.8	195.6	186	-	-	-	-	48	-	○
47 富着	"	7.8	3.4	-	-	1.5	31.3	0.9	204	72.9	5.8	178.4	216	-	-	-	-	48	0.09	○
48 堀川	"	7.4	7.0	-	-	11.8	139.2	0.9	282	91.3	13.1	187.2	518	-	-	-	-	51	0.02	×
49 前川 打込	打込	7.8	5.0	-	-	4.5	53.3	1.3	328	112.1	11.6	25.8	378	-	-	-	-	76	-	×
50 船越 湧水	湧水	7.9	4.4	-	-	11.8	44.6	0.3	232	86.5	3.9	15.8	336	-	-	-	-	60	0.02	×
51 船越小	"	8.1	4.2	-	-	11.8	48.6	1.8	232	86.5	3.9	158.8	360	-	-	-	-	64	-	×
52 志堅原	"	7.7	6.5	-	-	16.6	81.3	1.9	320	103.3	12.6	185.2	504	-	-	-	-	100	0.04	×
53 奥武 打込	打込	7.6	4.0	-	-	3.0	42.6	1.3	268	102.5	2.4	24.6	298	-	-	-	-	48	-	○

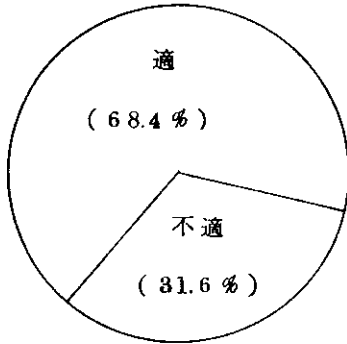
採水場所	種別	PH	電導度 uS/cm	アンモニア性窒素	亜硝酸性窒素	硝酸性窒素	塩素イオン	KMnO <sub>4</sub> 消費量	硬度	カルシウム	マグネシウム	アルカリ度	蒸発残留物	塩素要求量	鉄	マンガン	沸素	ケイ酸	ABS	判定
54 豊見城村 平良	湧水	7.8	6.2	-	-	5.8	46.9	1.8	304	112	5.8	233.2	506	-	-	-	18	-	○	
55 座安		8.0	24.0	+	-	0.4	750.5	18.6	94	16	13.1	288	2580	-	-	-	24	-	x	
56 与根, 瀬長	湧水	7.9	7.5	-	-	3.7	97.9	1.6	436	106.5	41.2	213.4	678	-	-	-	34	-	○	
57 米満市 潮平①	"	7.9	5.8	-	-	11.34	54.2	3.2	306	84.1	23.8	180.8	376	-	-	-	35	-	x	
58 " ②	"	7.8	6.3	-	-	11.54	45.8	5.0	310	104.9	11.6	234.8	444	0.4	-	-	55	-	x	
59 " ③	"	7.8	7.2	-	-	11.8	47.9	5.7	276	107.3	1.9	233.6	430	0.3	-	-	55	-	x	
60 座波	"	7.3	7.0	-	-	16.2	78.1	4.4	272	94.5	8.7	184.4	518	-	-	-	55	-	x	
61 喜屋武	"	7.3	5.8	-	-	9.6	57.0	2.8	240	82.5	8.2	169.6	406	0.2	-	-	40.0	-	○	
62 喜屋武小学校	"	7.6	5.6	-	-	8.6	59.1	2.2	264	97.7	12.1	174.4	418	0.1	-	-	46	-	○	
63 名城	"	7.5	4.2	-	-	10.6	67.6	4.1	282	96.1	10.2	187.6	378	-	-	-	55	-	○	
64 名城	"	7.5	6.3	士	-	10	67.6	4.1	290	95.3	12.6	182.8	502	-	-	-	46	-	x	
65 名城ビーチ	"	7.8	6.4	-	-	11.6	70.4	2.8	294	100.1	10.7	219.6	558	-	-	-	40	-	x	
66 名城ビーチ	"	7.7	10.8	-	-	8.8	250.9	2.8	352	102.5	20.9	200.4	854	-	-	-	46	-	x	

採水場所	種別	PH	電導度 uΩ/cm	アンモニア性窒素	亜硝酸性窒素	硝酸性窒素	塩素イオン	KMnO <sub>4</sub> 消費量	硬度	カルシウム	マグネシウム	アルカリ度	蒸発残留物	培養要求量	鉄	マンガン	沸素	ケイ酸	ABS	判定
67	糸満市吉	湧水	7.7	5.0	-	5.0	43.3	1.4	384	122.5	6.8	191.2	494	0.05	-	-	-	/	-	x
68	国吉	"	7.6	5.0	-	4.8	41.1	1.8	310	105.7	11.2	207.2	352	0.05	-	-	/	-	x	
69	真栄里	"	8.2	3.8	-	4.0	51.8	1.1	286	79.1	9.2	160.8	426	0.05	-	-	/	-	○	
70	真栄里	"	8.1	3.6	-	3.8	51.1	1.1	256	81.7	14.6	168	450	0.05	-	-	/	-	○	
71	大渡	"	8.0	4.6	-	8.2	53.6	2.8	304	114.5	4.4	194.4	460		-	-	53	-	○	
72	与座	"	7.4	4.0	-	8.8	36.9	0.9	246	85.7	7.8	210	364		-	-	48	-	○	
73	大里	"	7.9	4.4	-	4.2	30.2	0.3	208	79.3	2.4	174.8	280		-	-	40	-	○	
74	糸満	"	7.4	19.0	-	19.2	608.4	5.7	592	169.8	40.8	223.6	1810		-	-	100	-	x	
75	米須	"	7.6	4.1	-	8.4	70.4	1.6	292	92.1	15.1	192.4	432	0.3	-	-	50	-	○	
76	真栄平	"	7.6	3.0	-	6.1	54.9	3.2	186	66.5	4.9	159.2	322	0.4	-	-	35	-	○	
77	新垣	"	7.6	3.6	-	7.1	40.8	2.2	226	85.7	2.9	174.8	354	0.4	-	-	60	-	○	
78	具志頭村前	"	7.3	3.8	-	7.1	60.5	3.5	320	72.9	33.5	188.4	338	0.6	0.15	-	40	-	x	
79	具志頭	"	7.4	4.0	-	7.5	59.8	2.5	252	88.9	7.3	200.0	414	0.3	0.0	-	40.0	-	○	

(1) 飲料適否の比率

図表1で示すとおり、適が68.4%で不適が31.6%である。

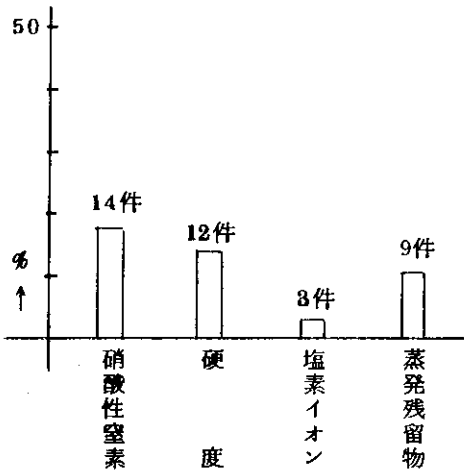
〔図表1〕 飲料適否



(2) 不適の原因

図表2のとおりである。

〔図表2〕 不適中の割合



(3) 以下項目別に検討してみる。

(a) PH

地質の関係で7~8が多く、弱アルカリ性を呈している。

(b)  $\text{NH}_3\text{-N} \cdot \text{NO}_2\text{-N}$

別表1のとおり、検出されたものは3件(約4%)だけである。

従って化学検査からみるかぎり人為汚染は少ないとみてよい。

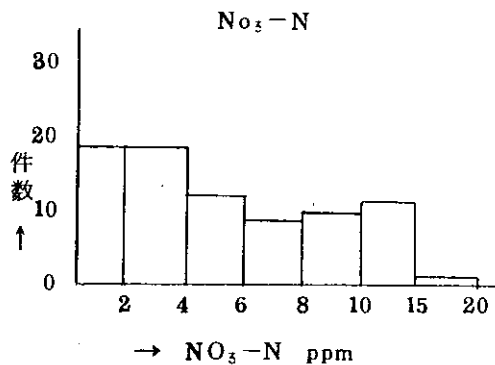
(c)  $\text{NO}_3\text{-N}$

図表3の示すとおり10ppmをこえるものが13件(海水汚染の糸満をのぞく)ある。

汚染の指標となる $\text{Cl}^-$ との相関について計算してみると、相関係数0.2となる。このことから $\text{NO}_3\text{-N}$ の検出は汚染を示す窒素化合物の分解によるものではなく、地質に起因しているものと思われる。また10ppmという基準は米国において小児メトヘモグロビン症の発生によって決定されたものといわれているが、最近の研究によると $\text{NO}_3\text{-N}$ が直接の原因ではないかという有力である。

水源池確保の上から暫定的に $\text{NO}_3\text{-N}$ の基準を15ppmまであけてもよいのではなかろうか(もしそれが許されるならば約95%が適となる。)

〔図表3〕



(d) 塩素イオン

50ppmが多く、平均は71.7ppmである。糸満市の糸満(608ppm)、名城(250ppm)ではCa, Mgの結果や地形からして多分に海水の影響が考えられる。

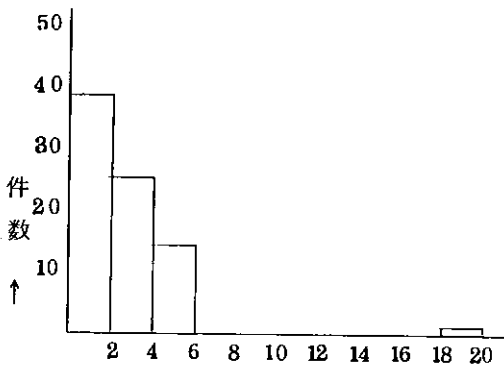
(e)  $\text{KMnO}_4$ 消費量

図表9の示すとおり1~3ppmの範囲内にあ



り、平均2.6 ppmである。

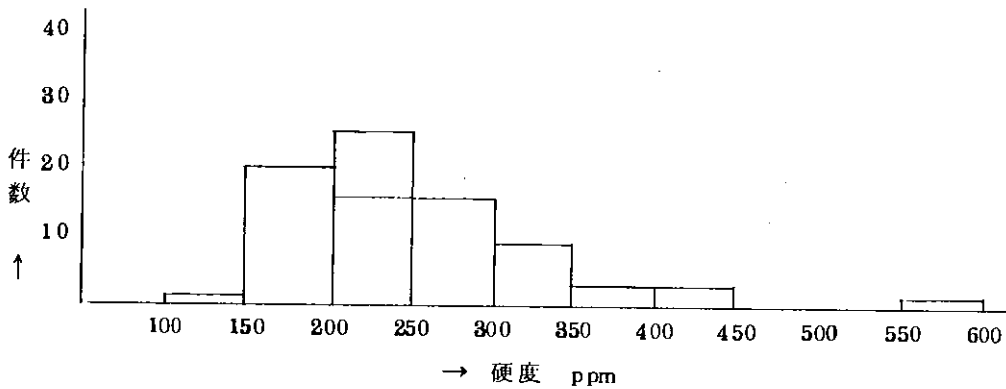
〔図表4〕 KMnO<sub>4</sub> 消費量 ppm



(f) 硬 度

平均251 ppmである。(図表5参照)平均50 ppmである日本々土と比べると5倍強となっているうえに300 ppmを越える所が12件(19%)もあるが、これは石灰岩の影響を受けているからであろう。

〔図表5〕



(g) Ca・Mg

図表5からCaは60~100 ppmが多く全体の76%である。

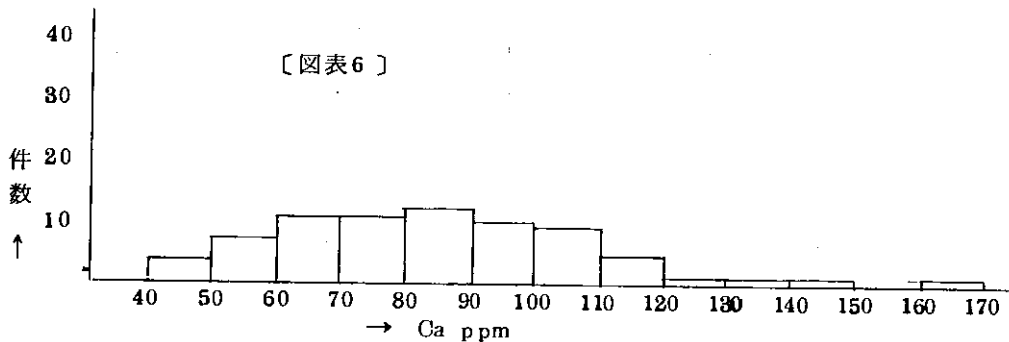
図表6のとおりMgは最低2.0から最高40 ppmとなっているが、10 ppm以下が62%を占

めている。

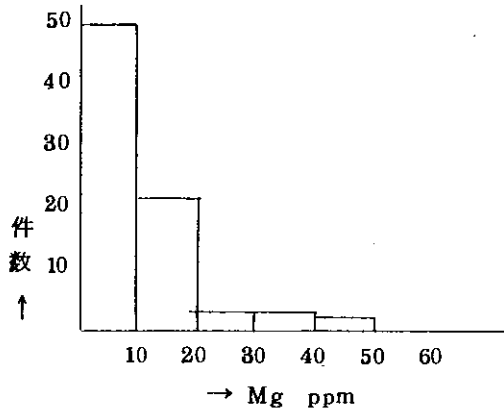
特に、糸満市の糸満においてはcℓ<sup>-</sup>、硬度Ca Mg、が高いことから海水の影響が明らかである。

CaとMgイオンの比率を出してみると、およそ8:1となっている。

〔図表6〕



〔図表7〕



(h) アルカリ度

平均194 ppmで最低120 ppmから最高1810 ppmとなっている。

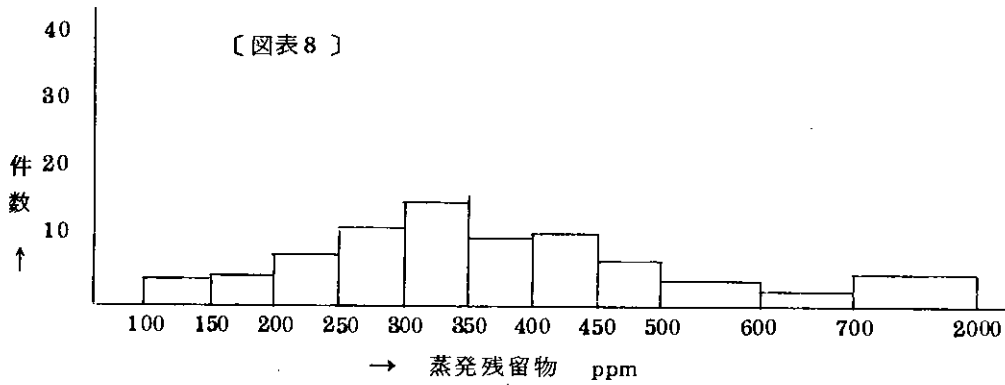
(i) 電導度, 蒸発残留物

電導度は2~20  $\mu\Omega/cm$ の間であって平均は5.1である。

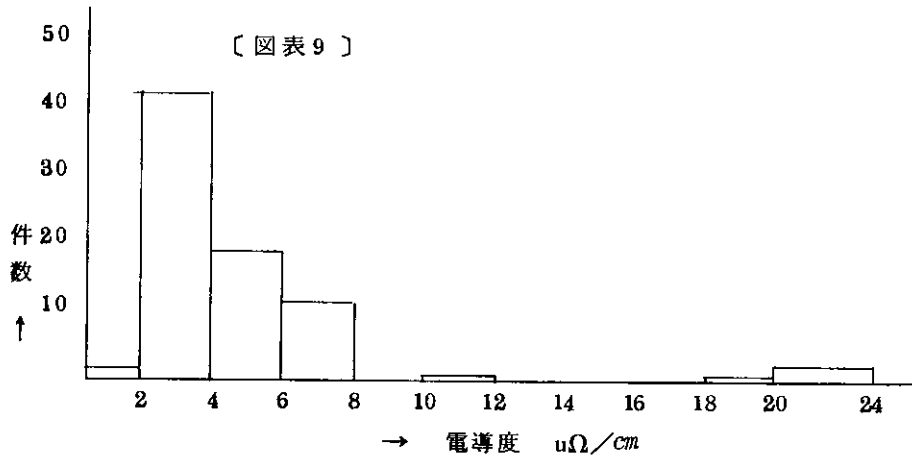
それに比し蒸発残留物は200から600 ppm (平均439 ppm) の範囲内にある。

電導度1に対し蒸発残留物57 ppmの割合であった。

〔図表8〕



〔図表9〕



(j) Fe, Mn, F'

Mn, F'は検出されなかった。

Feは平均0.02 ppmで最低0.0から最高

0.3 ppmであった。

(k) ABS

平均0.01 ppm (最低0.0から最高0.32 p

pm) で6カ所検出された。

洗剤による汚染が、わずかずつではあるが、すすんでいるのが分った。

以上みてきたように化学検査の結果からすると汚染の指標となるアンモニア性窒素等の検出は比較的少ないが、水源池の大部分が人家や農耕地と接しているので生活排水汚染、農薬汚染の可能性が十分に予想される。

### Ⅲ まとめ

① 飲料適が53件、不適26件であった。

② 不適の原因は硝酸性窒素、硬度、塩素イオン、蒸発残留物の限量超過である。

③  $\text{NH}_3\text{-N}$ 、 $\text{NO}_2\text{-N}$  はほとんど検出されず直接の化学的人為汚染は少ないと思われた。

④ 硬度は平均251ppm、塩素イオンは71.7ppmであった。

⑤  $\text{NO}_3\text{-N}$ は10ppm以上が14件もあり他の項目の成績がよければ、水源池確保のうえから15ppmまで基準をあげてもよいのではなからうか。

おわりに水源池調査に協力して下さった那覇保健所、衛生課、各村役場の方々に感謝申し上げます。